

問責決議：六月十二日、参議院にて野党より福田首相に対し問責決議が提出され、同日史上初めて「可決」されました。首相へは過去十四回提出し、いずれも否決。問責決議とは、参議院において首相や大臣の政治責任を問い、辞任要求の意図を込めて行ないます。衆議院における「内閣不信任決議」のような法的拘束力はありませんが、参議院として、首相への不信任の意思を示したことになり政権への影響も少なくありません。

首相問責決議参議院にて可決

後期高齢者医療制度は、その杜撰な制度設計と説明不足から国民生活に混乱を招くとともに高齢者の尊厳を蔑ろにするものとして、制度見直しに向けた世論が高まっています。

民主党では家計の実態や各種調査を踏まえて「後期高齢者医療制度廃止法案(議員立法)」を参議院にて六月六日に可決し、衆議院に送付しました。しかしあくまでも後期高齢者医療制度の不備を認めず、制度存続に拘る政府と党は、衆議院での法案審議を行なわないまま廃案に持ち込もうとしました。

民主党では、衆議院での法案審議を求めて断続的に国対委員長会談を行ないましたが、全く協議の進展が見られなかったことから、国民世論を無視した政府と党の姿勢に抗議するべく、六月十一日午後二時三十分参議院に「内閣総理大臣問責決議案」を提出し、同日午後四時に再開された参議院本会議で可決させました。

「内閣総理大臣問責決議案」の可決は、六十年以上に及ぶ参議院の歴史始まって以来のことであり、これで福田首相は今後一切参議院に立ち入ることは出来なくなりそうです。

問責決議は衆議院における内閣不信任決議と違い法的拘束力はないが、与党は今回の問責決議を無視する構えであり、また民主党の対応にも否否様々な意見があります。

しかし直近の民意を受けた参議院として、これ以上自公政権による民意を無視した政権運営を許しておけないとの思いから、敢えて非難は覚悟の上で問責決議を行なったことを皆様に報告します。

「政府は帆、国民は風、国家は船、時代は海」

問責決議の審議において賛成討論に立った民主党の築瀬進議員は発言の中で、ドイツの文芸評論家ヘルネの言葉を引用し、「政府は帆であり、国民は風であり、国家は

船であり、時代は海である。」と述べました。政府は国民の支持を受ける帆という存在でしかなく国民の支持(風)なくして帆は何の役にも立たず、国家という船は動かさない。国民の支持こそ、政府の正当性の根拠である、という民主主義の本質を裏に見事に言い表した言葉です。そしてその本質から現在の福田自公政権の政治手法がどれほど乖離しているのかを考えると愕然としてしまえます。過去これほど民意を無視した政権があったであろうか・・・と。

今回の首相問責決議が、その真の効力を発揮するか否かは、間違いなく今後の内閣支持率や政党支持率に大きく左右されます。国民の支持が得られない限り、福田政権が解散・総辞職をせざる居直り続けることは、更なる支持率低下を招くことになるからです。

民意こそが政治を動かす原動力であり、今その機は熟しつつあるということを是非ともご理解下さいませようお願い致します。

日本経済の信頼回復と持続性を 守るためには！

六月三日 財政金融委員会

参議院財政金融委員会は、「金融商品取引法等の一部改正法律案」について東京証券取引所斉藤博徳社長及びモルガンスタンレー証券経済調査部長ロバート・フェルドマン氏を招き参考人質疑を行ないました。

日本の金融市場は、これまでも国際市場を意識して制度整備を行ってきたにも関わらず国際市場における地位は相対的に低下しているが何故なのか？また今後、世界市場において日本市場はどのような影響力を発揮することを目指すのか？などについて参考人に意見を求めました。これに対し、斉藤参考人は、「コーポレートガバナンスの甘さ、借り手がお金を無駄遣いした(資本効率の悪い

使い方をした)分を国民全員がそのコストを払わされることになって日本の世界的信用が失われ地位が落ちた。だからこそしっかりとチエック機関が必要である」と述べました。またフェルドマン参考人からは「日本市場の競争力を高めることは労働や資本の使い方が良くなり、ひいては日本国民の生活水準を守ることである」との指摘を頂きました。

また法案の具体的内容について、課徴金制度のあり方が抑止力の観点から不十分であることや外国のいわゆるブラックマネーが日本に流入しやすい環境を作ってしまうことに懸念を示すと共に、ファイアウォール規制の緩和について厳しい自己規律の適用と実効性の確保が必要であることを確認して質問を終えました。



同志「柳沢みつよし」の目線

六月九日、福田総理をはじめ全閣僚が出席する決算委員会において質問に立ちました。現在、国の借金が八百四十九兆円、国民一人当たり六百六十五万円という危機的状況であると提示。しかし総理からは他人事のような答弁が続き、危機感は無様無の相。一刻も早く政権交代をし、国民の生活を第一とした政治を取り戻さなければならぬと実感。早期の解散・総選挙で民意を問うことを強く要請し、質問を終えました。(詳しくは「柳沢みつよし」ホームページで)